

## ◆校長祝辞

本日、上田安子服飾専門学校に入学されました皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。在校生とともに、教職員一同、心よりお祝いと歓迎のごあいさつを申し上げます。重ねてご家族や関係者の皆様にもお祝い申し上げます。

本来ならば、本日は皆さんと対面し、お祝いの言葉を述べるはずでしたが、新型コロナウイルスの影響により、このようなかたちで皆さんにお祝いを申し上げねばならないということは誠に痛恨の極みにほかなりません。

しかし、上田安子服飾専門学校は、新しい活躍の舞台に上がろうとされている皆さんを心から歓迎すると同時に、皆さんがこの上田安子服飾専門学校で世界に向かって羽ばたく能力を磨いていただくことを願っております。

上田安子服飾専門学校は1941年創立、79年の歴史をもつ学校です。日本のファッションの成り立ちとともに歩んできた長い歴史は上田安子服飾専門学校でしか学べない、独自のシステムやカリキュラムを生み出しました。

伝統を継承しつつ、時代に必要とされるファッションを世界に発信していくことこそが、私どもの使命と考えております。

また、企業と連携したカリキュラムや、国内外の教育機関との取り組みをとおして実践的で高度な職業教育を実現しております。

上田安子服飾専門学校の「伝統のチカラ」この伝統があるからこそ、より高く、より広い世界へ飛び立つことができると考えます。

どうぞ皆さん、この上田安子服飾専門学校の環境を活かし、広い視野で学ぶことで次の時代を切り拓くファッションの担い手になってください。

さて、本日、皆さんが入学を迎えることができたのは、皆さんご自身のたくさんの努力の結果であります。

と同時に、励ましていただいたご家族やご友人、そしてご指導いただいた先生方など多くの方々の応援のおかげだということをあらためて深く胸に刻み感謝の気持ちをいつまでも持ち続けてください。

今までの勉強で、皆さんには「正解のある問題を解くこと」「ひとつの正解を言い当てること」が求められていたと思います。

つまり、「知識の量」を試されていました。しかし、ファッションの世界では「正解のない問題」を解かねばなりません。「正解のない問題」を解くということは、「今まで誰も考えたことのないこと」を考えることです。

ひとつの正解を言い当てるのではなく、今までにないアイデアや付加価値を創造するチカラを身につけることです。

これには知識の量よりも知識の質が問われます。「知識の質」を高めるといって何か特別な事をすると思いがちですが、そうではありません。必要なのは、問題や課題にぶつかった時に、つねに自分で考えること。これを習慣づけることだと思います。考えることから逃げてはいけません。

つねに「自分の頭で考える」くせがついていると、おのずと他人とちがう考えに行きつくことが多くなり、個性が生まれます。そして豊かで創造的な発想につながります。

世界の状況は刻々と変化しています。インターネットによる通信技術の進歩もあり、ここ数年で一気にグローバル化しました。ファッションの流行サイクルもどんどん加速しています。

こうした世の中で、普段の勉強に真剣に取り組むことはもちろんですが、身につける知識の量だけに重きをおくのではなく、知識の質を高めていただきたいと思います。

つまり、自分の頭で考えて、物事を探求的に考える能力をつけていただきたいのです。

これこそが、ファッションの世界で必要とされる、個性を発揮する源になります。  
個性は、人々に感動を与え、情熱を伝える力となり、  
そして文化的な背景の異なる人たちと協業する力となります。

また、皆さんには、皆さんが自分で決めているかも知れない  
「自分の枠」からはみ出していきたいと思います。  
高校時代に、隣の人に自分を合わせて  
無理に「いい子」でいようとして生きてきたなら  
上田安子服飾専門学校での在学中にそこから抜け出していきたい。

上田安子服飾専門学校の学生は、隣の人と同じではだめです。  
ましてや隣の人と自分自身を合わせてはだめです。

どうぞ皆さん、在学中に「あなた自身の色」を見つけてください。  
これこそがあなたの個性を形作ります。  
あなたの人生感であり哲学ともいえるものです。

ぜひとも、教員の我々をびっくりさせるような個性を  
形作っていただくことを期待しております。

入学後は一日も早く新しい環境に慣れて、心身ともに健全を心がけ、  
日々の勉学にはげてください。  
そして将来の目標に向かって進んでください。

学生時代は、長い人生の中でもかけがえのない大切な時期です。  
皆さんが充実した楽しい学生時代を過ごされることを、教職員一同、  
心から期待しております。

ご入学、誠におめでとうございます。

令和2年4月8日

上田安子服飾専門学校 校長 田島 等